

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の見える所に掲示して共有し、常に心がけています。 カンファレンスで話し合いケアの統一を図っています。	法人理念は、ホール内に掲示することにより来訪者の目にも触れ、取り組み姿勢を明確にしている。家族に対しては、利用契約時にパンフレットを用い理念について説明すると共に2か月に1回発行される「まんでん新聞」にも掲載しお知らせしている。職員12名は、40歳代数名、50歳代若干名、70歳代半数の年齢構成であり、2か月に1回のカンファレンスの席上で理念について話し合って徹底を図ると共に理念に沿った支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新聞を作成し回覧をお願いしています。行事を行う時は通知しています。	開設以来自治会費を納めて地域に開かれた施設として活動している。また、2か月に1回発行している「まんでん新聞」も近隣で回覧して頂き、ホームの様子を知らせしている。地域住民の方が野菜の差し入れを持って来訪されて、利用者とお茶を飲みながら過ごされている。合わせて、正月に行われる「どんど焼き」に誘って頂いている。また、法人の介護ステーションで行われる「歌謡ショー」にも見学に出掛けている。コロナ禍が続いたため、ボランティアの来訪は、中止しているが、今後「歌」のボランティアの来訪が予定されている。更に飯島中学校の職場体験の来訪は、継続して行われており、傾聴、レクリエーションを中心に交流の時を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で講習会を開催しています。運営推進会議で話をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告をして、意見要望等を聴き、話し合い、サービス向上に努めています。	コロナ蔓延中は、書面での開催が続いていたが、昨年5月の5類への移行後は、対面で運営推進会議を開催している。自治会長、組長、民生委員、地域消防団、役場担当者、飯島町駐在所員、家族代表、ホーム関係者が出席した、2か月に1回奇数月に開催している。活動状況の報告、評価、要望、助言等を頂きながら意見交換を行い、サービスの向上に繋げている。	

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新時、担当者と連携を取っています。 書類提出時等は郵送ではなく直接担当者に届けて話す機会を作っています。	必要書類の提出等は、役場を訪問して直接担当者に手渡すと共に入居状況等様々な事柄について意見交換を行っている。最近、近隣の山で「熊」の出没が心配されており、駐在所にバトカーでの巡回をお願いすると共に利用者にも声を掛けて頂いている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪されて、家族、職員が立ち合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて提示しています。ご家族とその都度話し合い相談しています。カンファレンスやZOOM研修で職員全体が身体拘束に対する意識を高めてケアにつなげています。	法人の方針として身体拘束の無い支援に取り組んでいる。玄関は開錠されておりドアの開閉に合わせてチャイム音で知らせるように工夫されている。帰宅願望のある若干名の利用者には、玄関前のベンチに腰掛けて、話をお聞きしたりして対応している。ベッドより転倒落下の危険のある利用者数名には、日中はベッド柵を取り外すように心掛けており、ベッド下にはマットレスを敷いたり人感センサーを使用して安全確保に努めている。毎月のカンファレンスにおいて、状況を話し合った結果、人感センサーを取りやめる方向で進めている。年2回、近隣の法人で行われる身体拘束、虐待防止の研修会を通じて身体拘束に対する職員の意識を高めて支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで職員全体で学習しています。 虐待防止の徹底について提示しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用していませんがカンファレンスで復命しています。 今後活用できるよう学びたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明し同意を得ています。		

グループホームまんてん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族に現在の様子等を連絡し訪問時等に意見要望をお聴きしたり話を伺う様にしています。まんてん新聞をお届けしお知らせしています。	5類への移行後は、ほとんどのご家族が面会に見えて利用者との歓談の時を楽しまれている。利用者のホームでの生活の様子は、2ヶ月に1回発行の写真入りの「まんてん新聞」で詳しく伝えている。合わせて、個々の利用者の様子については、電話等できめ細かく連携を取っている。また、毎月の請求書を郵送する際に、日々の様子を写した写真を一言を添えて同封しており、ご家族にお届けしている。また、「花」や「菓子」等のプレゼントを持参して誕生日会に出席されているご家族もおり、一緒にケーキを食べてお祝いをしている。ホームでは、今年度は計画を立ててご家族と共に過ごす機会を設けたいという意向を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで意見を聞くようにしています。 管理者は常に意見や提案が話しやすい環境になる様に努めています。	毎月28日の19時より職員ミーティングを行っている。内容は、利用者の状況及び看護師からの報告、それに対する意見交換。また、「身体拘束・虐待防止」等の勉強会、「利用者との接し方、言葉の掛け方」等の研修会を行い、全員が発言するように進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調管理には充分注意しています。職員それぞれが意見要望等を話しやすいように環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	カンファレンスで報告し出来る限り参加できるようにしています。 研修会等には案内等を提示しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来る限り機会を作っています。 サービスの向上を目指しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の様子を見たりお話しています。 ホーム内の見学もしています。		

グループホームまんてん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が話しやすい環境作りに努め、これまでの経緯などをゆっくり聴くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族とご本人の思いを聴きながら信頼関係を築くと共に必要としているサービス支援を考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに笑ったり喜んだり悲しんだり困っている事を感じ合い、時には人生相談をしたり助言を頂いて信頼関係を築くと共に共働きしながら生活するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウィルス感染拡大防止の為面会は中止として来ましたが、面会を再開し家族との絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を再開し関係が途切れない様に支援に努めています。 地域のスーパーまで職員と共に買い物に出かけています。	地域の方の野菜の差し入れや親戚の面会もあり、歓談している。地域のスーパーへの買い物も再開されて交代でお好きな物の買い物に出掛けている。また、家族とお昼を食べながら外出したり、お盆には家族と墓参りに外出される方も数名おり、家族とのひと時を過ごされている。理・美容師が2ヶ月に1回来訪して、カットして頂いている。更に、「暑中見舞い」「年賀状」を職員と共に手作りして家族に発送して喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に入る時間以外は共同スペースで職員も一緒に過ごしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外でお会いするとお互いに声を掛けたり電話をくれています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しやすい環境作りに努め、会話の中から思いや意見を把握するように努めています。	利用者全員が職員の問い掛けに対して、自分の意思を表せる状況である。職員は、利用者一人ひとりの希望を把握しており、様子を見ながら買い物にお誘いしたり、ホームの周りの散歩に出掛けている。また、入浴後にはお好きな飲み物「リンゴジュース、カフェオレ」等を提案するなど、楽しく過ごして頂けるように努めている。そうした中、日々の気付いた事柄を日勤帯は黒字、夜勤帯は赤字、看護師は緑字で個人記録に記入し、毎朝の申し送り確認することにより、希望に沿えるような支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族に出来る限り教えて頂いたりご本人とのお話の中から聴き出しています。話しやすい環境作りにも努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活や会話の中から困っている事・出来る事・出来ない事・嬉しい事・嫌な事などを見つけ出して記録し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでケアのあり方など意見交換したり、状況に変化が見られたときには随時見直しをして家族にお話しています。	職員全員で利用者個々の状況把握に努めており、家族の希望は、面会時や電話で伺っている。カンファレンス時には、個人記録、連絡ノートを基に職員が話し合っ、モニタリングを行うと共にケアマネージャーがプランを作成している。入所時はケアマネージャーが立ち会って、家族から話をお聞きして暫定で1カ月のプランを作成。様子を見ながら6カ月のプラン作成に繋げている。プランは、状況が安定している場合は、1年で見直しを行い、状況に変化が見られる時には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にご本人の言葉・エピソード・1日の様子など記入しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族との外出や病院受診など外出には柔軟に対応しています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員に地域の消防・警察・民生委員・地域の役員の方々などにお願ひしホームの理解を頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診にはご家族の要望に応じ職員同行又は代行しています。情報共有も、日々の健康管理に合わせ医師との連携を取り万全な医療体制を整えています。月一回の往診も行っています。	入所時に医療機関の希望をお聞きし、ホームとしての取り組みについて説明している。現在は、全利用者が月に1回月末週の木曜日に協力医の往診を受けている。また、ホームに常駐看護師2名、パート看護師1が介護職員も兼ね勤務しており、日々の健康管理に当たっている。緊急時には協力医の看護師との連携が図られており、万全な医療体制が取られている。また、必要に応じて協力歯科医師の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しています。 24時間連携が取れるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供し、退院までの間ご家族や病院と連絡を取っています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族に説明し方針を話し合い重度化に伴う同意書を頂いています。看取りについての心構えの研修を行い看取り支援に備えています。	重度化、終末期に向けたホームとしての指針を、利用契約時に説明して希望をお聞きし、同意書を頂いている。合わせて半年に1回、終末期の対応に対する希望をお聞きし、確認している。食事を取る事が難しいなど、終末期を迎えた時には、家族の希望を確認して家族、主治医、看護師、管理者で話し合いの場を設けると共に医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂き、医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。1年以内に若干名の看取りを行っており、家族は居室にて最期の時を共にして、感謝の言葉を頂いた。また、看取り中は、居室内に思い出の物を飾ったり好きだった音楽を流し、過ごして頂いており、亡くなった後は、家族の希望に合わせて希望の洋服に着替えて頂いて、お見送りをしている。カンファレンスの席上、看護師が講師となり看取り研修会を行い、心の籠った看取り支援に通じ組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急は講習会を受けています。マニュアルを表示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と防災会社の協力を得て利用者さんと共に避難訓練を行っています。	年2回防災訓練を実施している。今年5月には消防署の参加を得て、火災を想定しての通報訓練、夜勤職員による利用者の外への避難訓練、火災報知器の使用訓練、消防署員の指導によるAEDの使用訓練及び心臓マッサージの実演講習を行い、合わせて防災機器の点検を行って防災意識向上に繋げている。10月にも今年2回目の防災訓練の実施を予定している。また、電話を用いた緊急連絡網の確認訓練を定期的に行うと共にスマートフォンのグループSNSを用いた訓練も行っている。備蓄については、「水」「お米」「レトルト食品」等1週間分が備えられている。	

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには特に気配りをし上から目線にならないように気を付けています。本人の気持ちを大切に考え声掛けをして寄り添い支援するようにしています。	言葉使いには、特に気配りをするように心掛けている。上から目線や強い口調にならないように注意し合って気持ち良く過ごして頂くように取り組んでいる。プライバシーに配慮して利用者の中で他の利用者の話はしない、排便についての話もホール内ではしないように徹底している。呼び方は、利用者の希望に合わせて苗字か名前を「さん」づけでお呼びし、入室の際には「ノック」と「声掛け」を忘れないように心掛けている。カンファレンスの席上、プライバシー保護について話し合い、意識を向上させて支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんに合わせた声掛けをして表情や気分を読み取ったり日々の会話の中で働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしてきたかを把握して一人一人のペースを大切に、それに合わせて生活して頂ける様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る人は自分で選び着替えて頂き身だしなみ見守りで整えて頂いています。できない人には一緒に着替えて身だしなみを整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士が立てた献立を用い、調理職員2名が昼食夕食を調理してお出ししています。テイクアウトもして食事が楽しみなものになる様に支援しています。	自力で食事が出来る方が多数、一部介助の方が若干2名の状況である。献立は、季節感も加味して立てられており、昼食、夕食は調理職員2名が調理して出来立ての物をお出ししている。また、朝食と日曜日の食事は、職員が調理している。また、2ヶ月に1回位は利用者の希望を聞いて「五平餅」「かつ丼」等をテイクアウトして楽しんでいる。また、「お好み焼き」「たこ焼き」「ゼリー」等を手作りして味わっている。	

グループホームまんてん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調と摂取量を把握し看護師とも相談しています。入所時に食べ物の好みを聴いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをしています。出来ない方には口腔ケア用のウエットティッシュでケアしています。毎日義歯の洗浄を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄記録をとり、パターンや習慣を職員全体で共有し把握して支援しています。現在一部介助の方3名、全介助の方5名という状況です。	利用者の半数の方は、自立でリハビリパンツを使用、残りの方は、全介助でおむつ使用している。職員は、利用者個々の状況を把握しており、食事前後、おやつ時の、1日6回、排泄表も参考にして様子を見ながらトイレにお誘いしている。排便についてコントロールしている利用者が若干名おり、状況を見ながら看護師が対応している。また、リンゴジュース、スポーツドリンク、コーヒー、お茶等で1日1000cc以上の水分摂取に取り組み、排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄記録を取り看護師・介護職員・調理職員で共有し予防に心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一部介助の方3名全介助の方6名という状況です。大半の方がリフト浴使用となっています。体調や気分配慮しながら支援しています。	全利用者が入浴介助が必要な状況であり、入浴拒否の方もおられるが、週2～3回の入浴を楽しんでいる。入浴後には、スポーツドリンク等の水分摂取も進めている。湯舟に入浴剤を使用すると共に、「ゆず湯」「菖蒲湯」「リンゴ湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい時に居室や共同スペースで自由に休んで頂いています。		

グループホームまんてん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスで様子を確認し看護師と連携しています。連絡帳など活用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとを見付け一緒に楽しみ気分転換しています。出来る事も一緒に見つけ声掛けしてお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩や日光浴をしています。ドライブ・花見・買い物等戸外へ出掛ける様に支援しています。花を植えたり家庭菜園で作物を見たりして外気に触れています。	外出時は、自力歩行の方と車いす使用の方がほぼ半数の状況である。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、玄関前のベンチに腰掛けて外気浴を楽しむと共に庭先に花を植えたりして楽しんでいる。コロナ禍中は思う様な外出ができなかったが、現在は春から秋にかけて、季節のお花見を兼ねたドライブを楽しみ、季節感を味わっている。また、希望に合わせて買い物にも出掛けて欲しい物を購入している。合わせて、家族との外出支援も積極的に支援しており、喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く時にはお金の支払いをして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など希望があれば自由にお話して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や季節を感じられる物を飾っています。温度湿度計で管理しています。利用者さんの声に耳を傾けています。	玄関前には季節の花が植えられ、来訪者を迎えてくれる。広々としたホールは天井も高く開放感が漂っている。食事テーブルと小上がりの畳スペースがあり、利用者が一日過ごす寛ぎの場となっている。中庭には、利用者と職員が共に植えた花々が咲いており、季節感が感じられる。空調はエアコンと床暖房が設置されており、年間を通して快適に過ごせるように工夫されている。	

グループホームまんてん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を置き居場所づくりをしています。共同スペースには畳のスペースがあり、自由に過ごして頂ける様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物品を持ってきて使用して頂いています。	掃除が行き届き清潔感が漂う居室は、十分な広さが確保されている。また、カーテン越しに広いクローゼットが設けられており、整理整頓がし易いように工夫されている。家族と相談の上、整理タンス、衣装ケース、テレビ、お位牌等が持ち込まれ、自由に居心地の良い生活の場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり・スロープ・滑り止めなど取り付けています。		